

A-2:研究機関とURA

開催日時・会場 9月15日(水曜日) 10:40-12:10 2階中ホール

Powered by 人社支援

令和3年4月に施行となった科学技術・イノベーション基本法（旧科学技術基本法）で、「人文科学のみに係る科学技術」及び「イノベーションの創出」も振興の対象に追加されたことを受け、俄かに人社系研究への期待が高まっています。

現在まで、人文・社会科学系 URA ネットワークにおいて、URA が組織の枠をこえてつながり「人社系研究に対して自分たちは何ができるのか」などメンバー間で活発に議論してきました。

本セッションでは、自然科学系ほど十分には手が回っていない人社系研究支援について、当該分野の見える化や他分野の研究者等をつなぐ機能強化、そして大学等における人社系 URA のリクルートや組織化などを議論したいと思います。

具体的には、①総合知や人社系研究の振興等に関する今後の展望と人社系URAへの期待、②言語学者が語る総合知について、③琉球大学URAの新しい取組みに関して話題提供いただき、残りの時間を使って登壇者間さらにはフロアからの質疑応答を含めて議論していきたいと考えています。

オーガナイザー

森本 行人:筑波大学・URA研究戦略推進室・ チーフURA



関西大学大学院経済学研究科でアメリカの情報の歴史を研究した後、2013年より現職。同年度人社系フォーラムを有志で発足させ、活動継続中。途中、2015年から3年間の筑波大学人文社会国際比較研究機構（ICR）へ派遣中に学術誌の多様性をはかる指標IMDを開発し特許出願。2019年に経済産業省 クールジャパン政策課に課長補佐として出向し、ローカルデザイナー育成事業を担当。帰任後、筑波大学ゲートウェイの事務局他に従事。博士（経済学）。

講演者

河村 雅之: 文部科学省・研究振興局振興企画課・ 学術企画室長



文部科学省に入省後、2021年7月より現職。これまで文部科学省においては産学連携、学校の施設整備、高校無償化、学校安全などの業務に従事。その他、厚生労働省（職業能力開発）、復興庁、内閣府（知的財産戦略）、熊本県教育委員会への出向も経験。

青木 三郎: 筑波大学・人文社会系・教授



フランス共和国パリ第7大学大学院言語学部博士課程 修了。1986年筑波大学文芸・言語学系 専任講師、1993年助教授、2004年同大人文学社会科学部 助教授、2011年より現職。2018年～2021年人文社会系長。専門はフランス語学、意味論。言語学博士。

丸山 浩平: 早稲田大学・研究戦略センター・教授



JUKI(株)にて産業用機械のR&D、技術戦略企画、新規事業開発等を担当した後、早稲田大学でバイオセンシング研究に従事。2009年から大学研究戦略センター（URA組織）の立上げに参画し、その後も複数の大学でURA活動に従事。JST・CRDS特任フェロー兼務。専門は技術戦略企画、計測学など。日本の科研費システムが変化中、あらためてURAが行うべき役割を考えます。

島袋 真澄: 琉球大学・研究推進機構 研究企画室・ 副主任URA



2020年6月に琉球大学URAとして着任。研究プロジェクトの企画・運営、研究費獲得支援、学内のSDGs活動の推進・広報等の業務を担当。URA転身前は、教育関連の民間企業を経て、琉球大学、大阪大学にて社会医学系研究のコーディネーターとしてプロジェクト運営、組織マネジメントに従事。これまで大学、行政、地域住民が連携した健康づくりの介入研究に携わり、現在も琉球大学医学研究科の大学院生として研究活動を継続している。